**第３回河原地域振興会議**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　日　　時　令和元年７月２４日（水）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　午後１時３０分～３時００分

　　　　　　　　　　　　　　　　　　場　　所　河原町総合支所　第6会議室

**〔出席委員〕**

竹田賢一会長、谷口正博委員、楮原典子委員、倉信　敬委員、坂本悦子委員、河毛　寛委員

西尾　純委員、奥谷仁美委員、坂本綾子委員、山縣恒明委員　　以上１０名

**〔欠席委員〕**

　　小谷加代子副会長、中村佳紀委員

**〔事務局〕**

九鬼支所長、森田副支所長、西山市民福祉課長、前田産業建設課長、平尾地域振興課課長補佐

**〔傍聴者〕**

なし

**会議次第**

１　開　会

２　会長あいさつ

３　報告・協議事項

1. 新市域振興ビジョン推進計画の進捗状況について　【資料１】
2. その他

４　その他

５　閉　会

**議事概要**

**（１）新市域振興ビジョン推進計画の進捗状況について**

（各課長　資料１により説明）

（委　員）北村の解体処理場の現在の稼働率、具体的な販路はどうなっているのか。

（事務局）北村解体処理場では、北村と弓河内の方が主に利用されていますが、高齢で、農業等のかけもちの方がほとんどです。主に地元の方に週末に提供されています。なお、若桜道の駅の近くの肉工房では、年間３千頭ぐらいの猪、鹿を解体されています。専業の従業員が５、６人で、東京、大阪などレストランへの提供やペットフードとしての販路もあるようです。

（委　員）河原で猪、鹿はどのくらい獲れるのか。

（事務局）昨年度は、猪と鹿で600頭ぐらいです。11月～2月までは市に報告がありませんが、おそらく1千頭近くは加工されていると思います。

（委　員）若桜町や鹿野町の施設はジビエを商品として提供できる施設と設備、専属の職員が整備されている。北村の施設はそのような施設ではないため販売して販路を広げることはできていないと聞いているが、当初の計画、これまでの経過を尋ねる。

（事務局）北村の解体施設は、地元が事業主体となり、国・県等の補助を受けて整備したものです。当初は、北村の施設で解体したものを冷凍し鹿野町の施設に持って行き販売してもらうという計画でしたが、現在は行っていません。

（委　員）鳥獣の被害も多いので、施設を有効利用し鳥獣対策やジビエの販売などができるような方法を検討した方が良いのではないか。

（事務局）施設の利用の方法や、専門的な知識を要するさばき方の講習会など地元や猟友会と協議しできることから支援していきたいと考えています。

（委　員）山手工業団地など誘致した企業の従業員は自宅やアパートから通勤しているか。

また、ある企業は外国の人を雇用すると聞いているが、河原町に住居を考えないといけないのではないか。

（事務局）団地やアパートを行政主導で進めることは難しいので、できることは民間に働きかけるなどです。また、企業からは住居についても整備するように聞いています。

（委　員）空き家などの有効利用を考えてみても良いのではないか。

（委　員）新市域振興ビジョン推進計画に関連した西郷地区の取組みだが、西郷工芸の郷あまんじゃくが中心となり、７月２１日に大宮エリーさんの講演と、人間国宝の前田昭博さんの対談を行った。地区外や若い年代の方も参加され１４０～１５０名が来場された。また、工芸作家の募集をチラシやＳＮＳで行い、現在、益子の方と粟倉で木工をされている方、２名の応募があった。次に民泊については、大阪市内の中学生を昨年１５～１６名、今年は３６～３７名を２回、１軒につき４～５名を８軒で１泊引き受けた。来年は５回計画されているので受入できるか検討している。最後に７月２０日に三滝の夏祭りを行った。夏祭りのチラシを配布したが、天候が悪く春祭りより参加者が減ったが、水が使用できるようになったので釣堀りを行い、来られた方には大変好評だった

（委　員）民泊を受け入れ可能な家庭はこれからも増えそうか。

（委　員）現在登録が１２、１３軒あるが、実際は日程等により８軒確保するのがやっとだった。大阪市教育委員会と旅行会社で計画され、佐治、関金を中心に行っている。佐治町が受入できない場合に智頭町、西郷で受入している。来年度は５回受入があるが、民泊家庭数を増やして対応しないといけないので今後協議をする予定である

（委　員）八上姫、売沼神社にちなんだ商品はあるか。県外からの問い合わせが結構ある。

（委　員）八上姫のみの単体販売は難しく、河原・用瀬・佐治と合わせ三姫物語とＰＲしている。河原道の駅で絵馬、石など販売している。

（委　員）町内の農産物加工グループについての現状把握はしているのか。前回、施設がなくて困っていると伝えたがどうなっているのか。

（事務局）河原町内で商品を生産、加工、販売する団体は把握しています。設備については、具体的な相談は受けていません。各グループの年間の動きやそれぞれの分析には至っていないので、今後は情報収集が必要だと考えている。

（委　員）熱意のある人は、古代米を活用したお酒造りを酒造会社の協力を得て行ったりしている。本人のやる気があれば商工会など支援するところはたくさんある。

（委　員）河原市民プールを指定管理にと考えているのか。

（事務局）河原市民プールは、町の時は、河原町教育文化事業団で管理していましたが、合併後は市が直営で管理しております。ただし、鳥取市教育福祉振興会の所有のため指定管理ができない状況です。

（委　員）教育福祉振興会はどう考えているのか。

（事務局）所有は振興会であるので市としては管理していただきたいと考えています。教育福祉振興会と市で協議するよう生涯学習・スポーツ課にお願いしているところです。

（委　員）公認コースがあるプールは河原市民プールを含めて、鳥取県に２つしかない。指定管理にだすというのがいいのかどうか。いずれにしてもこれまでの経過等きちんと整理しないといけない。

（委　員）あゆ祭の補助金は、地域振興費から出費されているが、県外からの来場者も増加しており、観光の視点で予算計上してほしい。

（事務局）あゆ祭の補助金は、河原町総合支所の予算として計上しています。費目としては観光費で計上しています。

（委　員）農業振興について、河原町では60～65歳で定年を迎え農業に従事している方が多い。定年延長で70歳までとなると農業者人口は益々減ってくると思う。また、家族経営できるのも５ｈａといわれている。今後、農業従事者をどう支えていくかを考える必要がある。次にジビエについては、価格や捕獲者の給与の保証をした上で、加工のノウハウを定着させ、美味しさを普及していけば採算性はある。県庁食堂では毎週火曜は鹿肉、猪肉が提供されているが、先進地域の取組を視察するなど河原でできることを考えていかないといけない。最後にあゆ祭について、天然の鮎を卵からふ化させて千代川でとれて提供できるようになると観光としての価値が高まる。あゆの町かわはらをキャッチフレーズとしているのでそのことについても検討していく必要がある。

（委　員）あゆ祭の鮎については養殖ではあるがより良いものを塩焼きにして提供している。実行委員会としても伝統のあゆ祭りを残して行きたいと考えている。天然の鮎が減ったことについては、これまで実行委員会としても勉強してみたが、はっきりしたことはわからなかった。国交省や漁協など多岐にわたって検討していかなければならない。

（委　員）鮎や他の川魚も少なくなっている。全体の環境をどうするか。いい方策を考えることができればと思う。

（事務局）県レベルで水質検査などしているがはっきりした原因はわかっていない。

（委　員）定年退職後の農業は体力的なことを考えると難しい。また、専業農家についても農業者年金というものがあるが入っておられない人もいる。確かにいろいろと考えていかないといけない。

（事務局）農業後継者についてはどこも非常に少ないですが、河原町は新規就農業者が多いといわれています。３０代４０代の県外の方の中にIターンされ農業に従事し徐々に経営を拡大されている方や地元で農業後継者とがんばっておられる方などがおられます。また２０代女性で就農された方もあります。いずれにしても農業の魅力をどれだけ伝えて行けるかが大事になってくると思います。

（委　員）専業農家としては、やはり販路が大事だと思う。また、２０代３０代から経験を積み重ねるとよりいいものが作れる。

（委　員）新規就農者にはやはり何年かは支援が必要となる。そうしないと定着しない。

（事務局）農業関係の支援は色々とあります。今後も意見交換会を定期的に行い、情報提供させてもらいたいと思います。

（委　員）高齢者が免許証を返納すると、病院への通院や買い物などが大変不便になる。行動範囲が狭くなり、ひきこもってしまう方もいる。例えば、一人乗りで安価な車でもあれば地域内での行動が可能になる。そういうものに対する補助や交通システムがどうにかならないか。

（事務局）国の指針も緩和されつつあり、市としては、地域内の交通を維持できるようなかたちにシフトしています。地域で運営する地域交通について機会をとらえて説明をしていきたいと考えています。

次回は８月２０日（火）午後２時００分から（用瀬町民会館）